５６．智頭往来(ちずおうらい)―志戸坂峠(しとざかとうげごえ)越

選定箇所：市瀬～志戸坂峠（鳥取県智頭町）～坂根（岡山県西粟倉村）

概要：因幡国と美作国境の志戸坂峠を越える智頭往来は、古くは平安時代の律令政府が定めた、国司通行の官道であり、因幡国司平時範が京より赴任する際に通ったと記されている。近世では鳥取藩が参勤交代の道として重視し整備を行った。智頭町内には、往来の安全を願う大日如来や地蔵の他、廻国記念碑など近世の道にまつわる石造物が数多く残されており、参勤交代のみならず、人々や物が往来する主要道であったことが窺える。その後、明治に入り峠道を掘り下げ、車道の開設工事を行い、軍事上の要道としても重要な役割を果たした。

　自然や歴史に恵まれ、昔の面影を今に伝える智頭往来は、農林業や生活道路としても使用されながら、地元の貴重な歴史遺産として大切に守られており、わが国の交通史を考える上でも重要である。